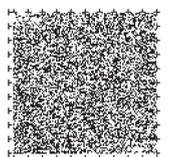


第 3 章

機能と役割



第3章

機能と役割

新県立美術館の「目指す姿とコンセプト」を実現するため、次に掲げる「文化芸術を取り巻く社会情勢」を踏まえ、これに的確に対応できるよう、「機能と役割」を整理する。

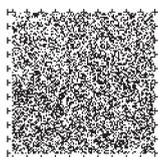
1 文化芸術を取り巻く社会情勢

(1) SDGs (持続可能な開発目標)、 ダイバーシティ (多様性) とインクルージョン (包摂)

ア SDGs (持続可能な開発目標)

平成27 (2015) 年9月の国連持続可能な開発サミットにおいて、国際社会全体の令和12 (2030) 年までの開発目標として、「すべての人々に包摂的かつ公平で質の高い教育を提供し、生涯学習の機会を促進する」などの17の目標 (持続可能な開発目標 = SDGs) が設定され、経済・社会・環境をめぐる広範な課題に統合的に取り組むこととされた。

SDGsを推進していくことは、「世代を超えて、すべての人が、自分らしく、良く生きられる社会」の実現に寄与するものであり、新県立美術館の機能と役割の検討においてもSDGsの考え方を尊重していく必要がある。



このマークは目の不自由な方などが使う音声コードです

イ ダイバーシティ(多様性)とインクルージョン(包摂)

異なる価値観や個性を認め尊重しあう「ダイバーシティ」や、年齢や性別、障がいの有無にかかわらず、能力に応じてすべての人々が参加する社会を目指す「インクルージョン」の考え方が、社会の中で重要性を増している。

近年、美術館は、多様な人々が文化芸術を通じて学習や交流を行い、理解しあう場となっている。新県立美術館では、国内外の様々な文化芸術に触れ、背景の異なる人々が出会い、体験を共有し、交流する場となることで、多様な価値観の存在を知り、違いを尊重し、相互理解を深める活動をしていく必要がある。

(2)革新的な技術

ア 先端技術

照明、映像、音響の技術は日々進歩し、例えば、AR(拡張現実)やVR(仮想現実)を使って身体の動きと連動して3次元の仮想空間を出現させる作品や、AI(人工知能)を使って大量の画像データから特定の作家の作品を選別する研究などが始まっている。こうした先端技術を用いることで、芸術の可能性を拡張していくことが期待されている。

新県立美術館では、最新の美術表現の発表、研究、新たな鑑賞体験を可能にする先端技術や手法を取り入れていく必要がある。

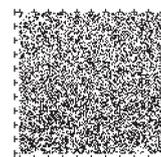
イ 情報通信技術

ICT(情報通信技術)の進歩によって、作品の展示、創作、鑑賞などの美術館における活動が魅力あふれるものになるとともに、館外からもアクセスが可能となるなど、美術館活動の可能性が広がっている。

また、コミュニケーションツールとしてSNSが浸透し、美術館による情報発信はもとより、来館者が美術館での体験をSNSで広く拡散することで、更なる集客につながる広報手段としても活用されており、コミュニケーションツールの進歩に的確に対応していくことが求められている。

新県立美術館においては、最先端のICTを作品の展示、創作、鑑賞などに取り入れるとともに、ICTの進歩に対応した情報発信を行うことで、多くの人々に美術館の魅力を伝えていく必要がある。

このマークは目の不自由な方などが使う音声コードです



(3)安全・安心・快適

ア 災害に強い美術館

美術館は、歴史の中で生み出されてきた貴重な美術作品を多数収蔵しており、それらを災害から守り、後世に継承していく役割を有している。

近年、地震や豪雨による建物損壊、水害、土砂災害等が頻発しており、新潟立美術館では、こうした災害から確実に美術作品を守るため、災害に強い美術館を整備する必要がある。

イ 気候変動

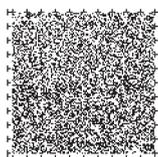
気候変動とその影響を軽減するため、温室効果ガス排出を抑制し、地球温暖化を解決することは、世界共通の課題となっている。

新潟立美術館においても、二酸化炭素をはじめとする温室効果ガス排出を抑制するため、電力消費の効率化を図る省エネ技術や環境への負荷が少ない再生可能エネルギーを導入し、脱炭素社会の実現に向けた取組みに対応していく必要がある。

ウ 新しい生活様式

新型コロナウイルス感染症(COVID-19)は、特定の展示に多くの人々が集中するこれまでの鑑賞のあり方に課題を投げかけ、新しい美術館のあり方を考えるきっかけとなった。

これからの美術館は、来館者の感染防止対策(換気、検温、消毒等)の徹底はもとより、密にならずゆったりと鑑賞でき、休息がとれる空間を設けるなど、来館者が快適に過ごすことができる環境を整える必要がある。



このマークは目の不自由な方などが使う音声コードです

(4) 文化芸術をめぐる県の動き

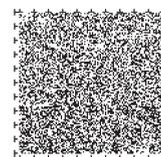
国では、平成29(2017)年に「文化芸術基本法」が施行され、文化芸術の振興にとどまらず、観光、まちづくり、国際交流、福祉、教育、産業その他の各関連分野における施策を法律の範囲内に取り込むとともに、文化芸術により生み出される様々な価値を、文化芸術の継承、発展及び創造に活用することとされた。また、平成30(2018)年には、文化芸術活動を通じた障がいのある人の個性と能力の発揮及び社会参加の促進を図ることを目的として「障害者による文化芸術活動の推進に関する法律」が施行された。

本県においては、両法の趣旨を踏まえ、令和2(2020)年に、県民の心豊かな生活及び活力ある地域社会の実現に寄与することを目的に、「福岡県文化芸術振興条例」を制定した。更に翌年、条例に基づき、「文化芸術の振興」「文化芸術に親しむことができる環境づくり」「障がいのある人の文化芸術活動の推進」「文化芸術を活用した地域づくりと魅力の発信」の4つを施策の柱とする「福岡県文化芸術振興基本計画」を策定し、本県の文化芸術の拠点となる新県立美術館を整備することとしている。

今日、九州と本州の交通の要衝にある本県は、企業や大学、商業施設等が集積し、文化芸術関連の事業も数多く開催され、九州の中心として機能している。また、九州の自治体、経済界では九州一体となった様々な取組みを展開しており、文化芸術の分野も含め、九州連携の機運も醸成されている。

こうした状況から、新県立美術館においては、様々な分野の施策との連携により、文化芸術はもとより、観光振興、福祉の増進、産業振興などに貢献していくとともに、九州における拠点性といった特性を活かし、国際的な視野や九州各県との連携の視点を取り入れていく必要がある。

このマークは目の不自由な方などが使う音声コードです



2 新県立美術館の機能と役割

新県立美術館は、以下の6つの機能を備えるものとする。

1 収集保存

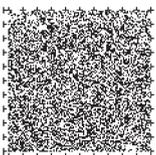
2 展示公開

3 調査研究

4 教育普及 連携交流

5 情報発信

6 美術館の快適な利用



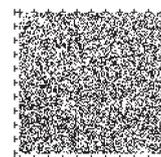
1 収集保存

- 新県立美術館は、長い歴史の中で生み出されてきた福岡県の美術を、永く後世に伝えていく責務がある。収集保存を通して、その使命を果たしていく。
- 国内外や九州の美術の交流のなかで発展してきた福岡県の美術を、体系的で魅力的に紹介するため、九州や世界のなかで本県の美術を捉える視点に立ってコレクションを拡充する。
- 最新の保存科学の知見を取り込みながら、作品の劣化の進行を防止するとともに、作品の増加に対応するため、作品の収蔵において将来にわたり安定的に保存できる設備と容量を確保する。

ア 収集

1. 新県立美術館は、以下の方針で作品(デジタルの作品を含む)を収集する。
 - 近世以降の福岡県の美術の総体を捉えるため、青木繁や坂本繁二郎、児島善三郎など本県ゆかりの著名作家をはじめ、本県の美術風土形成の一翼を担ってきた作家の作品も含めて収集する。
 - 日本における九州の作家の重要性や、九州における本県の美術の特徴を捉えるうえで重要な九州の作家の作品を収集する。
 - 福岡県や九州の美術を、日本や世界の美術地図に位置づけるため、影響関係や同時代性などの点で関連が深い国内外の作品を収集する。
 - 県立美術館の特徴的な収蔵品である近代工芸やプロダクトデザインなど、生活のなかの美術にかかわるコレクションの充実を図り、炭鉱や地場産業、都市文化などの本県の発展の歴史のなかで生まれた作品に光を当てるため、社会や生活を表象する美術作品を収集する。
 - 重要な美術作品の亡失等を防ぐため、歴史的に意義ある貴重な美術作品を収集する。

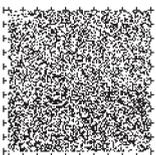
このマークは目の不自由な方などが使う音声コードです



2. 県立美術館の活動・収蔵品にかかわる資料のほか、展覧会で取り上げた作品や作家に関する写真や書簡などは、本県の美術についての重要な証言資料であり、作品と併せて収集整理し、福岡県美術資料アーカイブを構築する。
3. 作品や資料の収集にあたっては、基金による購入のほか、寄贈、寄託を受け入れる。また、購入資金については、クラウドファンディングやふるさと納税などの方法も検討する。
4. 購入や寄贈の適否を判定するため、外部専門家による選考委員会を設ける。
5. 作品を継続的かつ即応的に収集できるよう、作品収集のための基金を確保していく。

イ 保存

1. 収蔵に関わる設備は、以下の方針で整備する。
 - 重要文化財の保存、防火、盗難防止など文化庁等が定める基準に適合する設備とする。
 - 所蔵作品を守るため、薬剤だけに頼らず予防に重点をおいたIPM(総合的有害生物管理)などの方法に基づいた保存環境を整備する。
 - 地震や水害等の自然災害から作品を保全する設備とする。
 - 環境負荷が少ない省エネ技術を取り入れた保存設備を整備する。
 - 作品の形状や材質等に応じた収蔵庫を整備するとともに、購入や寄贈などにより増加する作品の量を踏まえた収納スペースを確保する。
2. 専門技術を有する外部の修復家や九州国立博物館の協力を得て、専門家の意見を取り入れながら収蔵品の適切な修復を行い、良好な状態を維持する。
3. 保存科学などの知見に基づいた作品の状態調査や収蔵庫内の保存環境の管理を行う専門の人材を確保する。



このマークは目の不自由な方などが使う音声コードです

2 展示公開

- 我が国有数の文化芸術ゾーンを担う展示面積と設備を整備する。
- 重要文化財や大型作品の展示はもとより、デジタル技術を活用した革新的な展示、先端的なアートパフォーマンスが可能な環境を整備する。
- コレクション展示では、新県立美術館が有する収蔵品を分かりやすく、魅力的に紹介する。
- 特別展示では、国内外の名作が堪能できる展覧会、新しい美術表現を紹介する展覧会、本県や九州の美術を詳しく紹介する展覧会、親子で楽しむことができる展覧会、来館者が参加できる展覧会など、世代を超えて県民の関心と興味に応えることができる多彩な展覧会を開催する。
- 県民の作品発表のための展示室（県民ギャラリー）を設け、福岡県美術展覧会（県展）の充実を図るとともに、若手芸術家に対し創作と発表の機会を提供する。
- あらゆる人が作品を楽しむことができるよう、多言語による表記、音声機器、各種アプリの導入や触ることができる作品展示など、鑑賞のための工夫を行う。
- 茶文化など本県が誇る日本文化の発信を日本庭園や能楽堂と一体となり展開する。

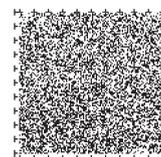
ア コレクション展示

1. 以下のようなストーリーをもつ展示構成を行うとともに、来館するたびに新たな発見や感動が得られるように、定期的に展示内容を更新する。

（展示例）

- 近世から現代までの本県の美術の流れがわかるよう、本県ゆかりの作家の作品を体系的に紹介。
- 本県や九州の作家の作品を、国際的な影響関係も含めて紹介。
- 本県や九州の美術作品と、それに関連性のある国内外の作家の作品を併せて展示し、地域の美術を日本や世界の美術の流れのなかで紹介。
- 特長的な収蔵品となっている高島野十郎など代表的な作家を常に展示。
- 特定のテーマを立て、作品を多様な視点から紹介する展示。

このマークは目の不自由な方などが使う音声コードです



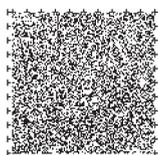
2. 展示空間が単調にならないように、インスタレーションの要素を取り入れたダイナミックな展示や、手に取ったり座ったりできる、使う楽しさを活かした展示など、変化に富んだ方法を工夫する。

イ 特別展示

1. 我が国有数の文化ゾーンとしての集積、アジアとの交通の要所というポテンシャルを活かすとともに、福岡県や九州の文化芸術を広く発信するため、以下のような視点を考慮する。
 - 国内外の先端的なアートシーンやデジタル技術を駆使した作品を体験できる展示や斬新な方法やテーマで構成された展示など「革新性に富んだ展覧会」
 - 国内外の優品が揃った名品展、作家の全貌を紹介する展示など「話題性ととも質の高い展覧会」
 - 歴史や社会、文化芸術の広い視点から本県や九州の美術の様相を総合的に捉えた展示など国内外の人々が「福岡県や九州を知る展覧会」
2. 重要文化財も含めて、様々な美術作品の展示に対応できるよう、天井高や面積、空調、照明、室の仕上げにおいて十分な品質の展示スペースを設ける。

ウ 県民や若手作家への発表の場の提供

1. 県民ギャラリーは、障がいの有無や年齢等にかかわらず、多様な人々がそれぞれの個性や能力を発揮し、作品を発表できる場とする。
2. 県民の創作活動を支援するため、福岡県美術展覧会(県展)の充実を図る。
3. 今後の活躍が期待される若手作家に対し、創作活動の場や発表の機会を提供する。



このマークは目の不自由な方などが使う音声コードです

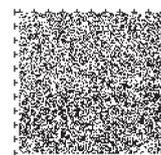
エ 魅力向上のための方策

1. 大濠公園や日本庭園、エントランスなど開放的なエリアでのパフォーマンスや芸術家による公開制作といった多様な手法を取り入れる。
2. より深く作品を理解し、楽しみながら鑑賞できるよう、鑑賞のためのアプリやソフトの導入、教材開発に努めるとともに、ICTを利用し、どこからでも展示やパフォーマンスをリアルタイムで鑑賞できるよう工夫する。
3. 展覧会の出品作や内容が、ワークショップでの体験、関連する図書や資料の紹介、カフェでの飲食やミュージアムショップでのグッズなど、展示公開機能以外とも連動し、美術館全体で魅力を提供できるよう諸事業を組み立てる。
4. 日々進歩する展示技術、通信技術を活用した展示やパフォーマンスが可能となる構造や設備を備える。

オ 福岡県が誇る日本文化の発信

1. 美術館に隣接する日本庭園を展示空間として活用し、展示にあたっては、上野焼、高取焼、小石原焼、星野焼などの陶器、芦屋の茶釜、八女地方の茶葉といった茶文化の形成に深く関わってきた本県の歴史を踏まえ、日本庭園や茶会館・茶室を活用した体験も組み合わせることで、福岡県の文化の広がりや歴史的な厚みを実感できるよう工夫する。
2. 大濠公園能楽堂とも連携し、能や狂言など伝統芸能に関連する展示を行うことで日本の伝統文化の魅力を紹介する。

このマークは目の不自由な方などが使う音声コードです



3 調査研究

- 福岡県や九州関連の作家、作品に関する情報を体系的に発信できるよう、重点的に研究する。
- 調査研究にあたっては、AI等の先端技術も取り入れ、大学、企業、他の博物館等と連携して取り組む。
- 研究成果を展覧会の企画立案、美術館の運営などに活用するほか、ホームページ等により広く発信する。
- 調査研究活動を継続的に実施できる環境を整備する。

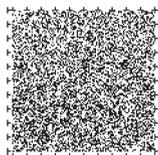
ア 調査研究の視点

調査研究は以下の視点を踏まえて実施する。

1. 収蔵品や展覧会で展示する作品、作家に関するフィールドワークや資料渉猟、技法解明等を通じた美術全般にかかわる調査・研究。
2. 最先端の技術や国内外の芸術活動の潮流を踏まえた、魅力的な展覧会の開催手法に関する調査・研究。
3. ICTを活用した戦略的な広報活動、県民参加や社会包摂の視点に立った実践的な教育普及活動に関する調査・研究。
4. 美術館の魅力向上、自律的・効率的な運営といった経営手法に関する調査・研究。

イ 調査研究の方法と活用

1. 調査研究においては、大学や企業との合同研究、共有データベースの作成、科学的調査の知見を有する九州国立博物館や九州歴史資料館の協力を得て行う。
2. 自主的な調査・研究を継続的、安定的に実施するための研究費を確保する。
3. 調査研究の成果は、展覧会の企画立案、美術館の運営などに活用するとともに、HPや広報誌での県民への紹介、紀要や学会誌への執筆、美術館・博物館での研修会などで広く発表する。



このマークは目の不自由な方などが使う音声コードです

4 教育普及 連携交流

- 県民が主体的に参加し、文化芸術の社会包摂機能を活かしながら、多様な人々と協働して活動することで、人と人、人と作品の交流が生まれる、アートを介したコミュニティ活動の拠点となることを目指す。
- 子どもから高齢者まで、多様な人々が芸術を介して、新たな視点や価値観に出会うとともに、生涯を通じた学びや体験の場となることを目指す。
- 教育分野や福祉分野と美術館が連携し、誰もが公平に社会の共有財産である美術館を活用する機会を作る。
- 県内各地に活動の領域を拡大し、芸術を活用した地域連携や交流に取り組み、福岡県や地域に関わる大切な価値や記憶を人々と共に伝え育てていくことで、「シビックプライド」を育む。
- 国際的な潮流や現代社会の課題を視野に入れ、国内外の美術館や美術家、学術・教育・産業分野等とパートナーシップに立った連携や交流を進めることで、文化芸術に新たな意義をもたらす価値創造の活動を行う。

ア 教育普及

1. 教育普及については、以下のようなプログラムを実施する。

(実施例)

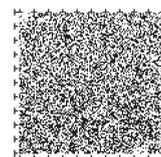
- **幼少期から美術に親しむためのプログラム**

親子で気軽に参加できる制作ワークショップ、児童生徒を新県立美術館に招待して鑑賞プログラムを実施する美術鑑賞支援事業、学校への出前授業やICTによる遠隔授業など。

- **美術や美術館に興味を持っている県民に向けたプログラム**

展示と関連した講演会やギャラリートーク、ワークショップ等の実施、展示作品の解説や作家のプロジェクトの手助けなどを行うボランティアの育成など。

このマークは目の不自由な方などが使う音声コードです



- **子育てや仕事のため美術館を訪れる機会が減った県民をサポートするプログラム**

夜間に展覧会やイベントを行うナイト・ミュージアム、周囲に気兼ねなく乳幼児とともに展覧会を鑑賞できる特別開館日の設定、ICTを利用して自宅で展覧会を鑑賞するヴァーチャルミュージアムなど。

- **療養や高齢のため美術館を訪れることが困難になった県民に向けたプログラム**

地域の文化施設で収蔵品を公開する移動美術館展の実施、施設内でのワークショップやミニ展覧会の実施等のアウトリーチ活動など。

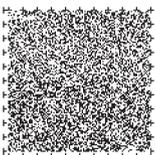
2. 体験型のプログラムに対応できるワークショップのスペースを確保する。
3. 美術館の活動をサポートするボランティアを育成する。

イ 連携交流

1. 県内、九州・国内外の美術館等との連携を深めることで、アジアとの交流で発展してきた福岡県や九州の美術を広く発信していく。
2. 大学等との合同調査研究、学校等との鑑賞教育の研究など学術分野や教育分野との協働事業を進めるとともに、福祉やゲーム産業など他分野や企業との連携交流による特別展や実験的プロジェクトの実施を通して、新たなベンチャーモデルや芸術の可能性を拓けていく。

ウ 人材の確保

教育普及プログラムの企画運営、学校や美術家とのコーディネートなどを行うことのできる専門の人材を確保する。



このマークは目の不自由な方などが使う音声コードです

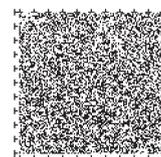
5 情報発信

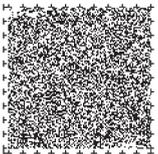
- オンライン上にもう一つの福岡県立美術館としてデジタルミュージアムを立ち上げ、展覧会やイベントの案内、収蔵品や資料といった情報のほか、アーカイブされた過去の展覧会の映像や開催中の展覧会のリアルタイムの映像、オンライン・イベントやヴァーチャル展覧会など、多様なコンテンツを提供する。
- 美術に関心がある人だけでなく、外国人観光客や新しい来館者層の拡大につなげるため、戦略的な広報計画を立て、ネットマーケティングを活用した効果的な情報発信を行う。
- 地域への周遊促進につなげるため、県内、九州の美術館とも連携して広域的な情報発信に取り組む。
- 来館者が美術館での楽しみや体験をSNS等で発信できるよう環境を整える。
- 美術図書や美術関連資料については、県民がオンライン上で検索できるシステムを構築するとともに、収納に必要な書庫や資料庫を整える。また、美術司書やアーキビストなど専門的な人材を確保し、図書や資料を県民が閲覧できる美術図書室を設ける。

6 美術館の快適な利用

- 年齢や障がいの有無、性別にかかわらず、また外国からの訪問者も、ストレスなく美術館を利用できるようユニバーサルデザインの考え方に基づき施設を整備する。
- 車いすやベビーカーの貸出し、授乳室の設置など、高齢者や小さな子ども連れの家族等が快適に利用できる設備を整える。
- バリアフリーを徹底するとともに、利用者の目線に立った休憩スペースやトイレ、ロッカーの配置など、誰もが快適に利用できる施設整備を行う。
- 県産品を用いたレストランやカフェ、オリジナルグッズを販売するミュージアムショップといった、美術館の魅力を向上させる施設を整備する。
- 感染症防止対策の観点からも、密にならずゆったりと鑑賞できる空間を設けるなど、来館者が安心して快適に美術鑑賞できる環境を整える。

このマークは目の不自由な方などが使う音声コードです





このマークは目の不自由な方などが使う音声コードです
